

令和5年度

いちき串木野市

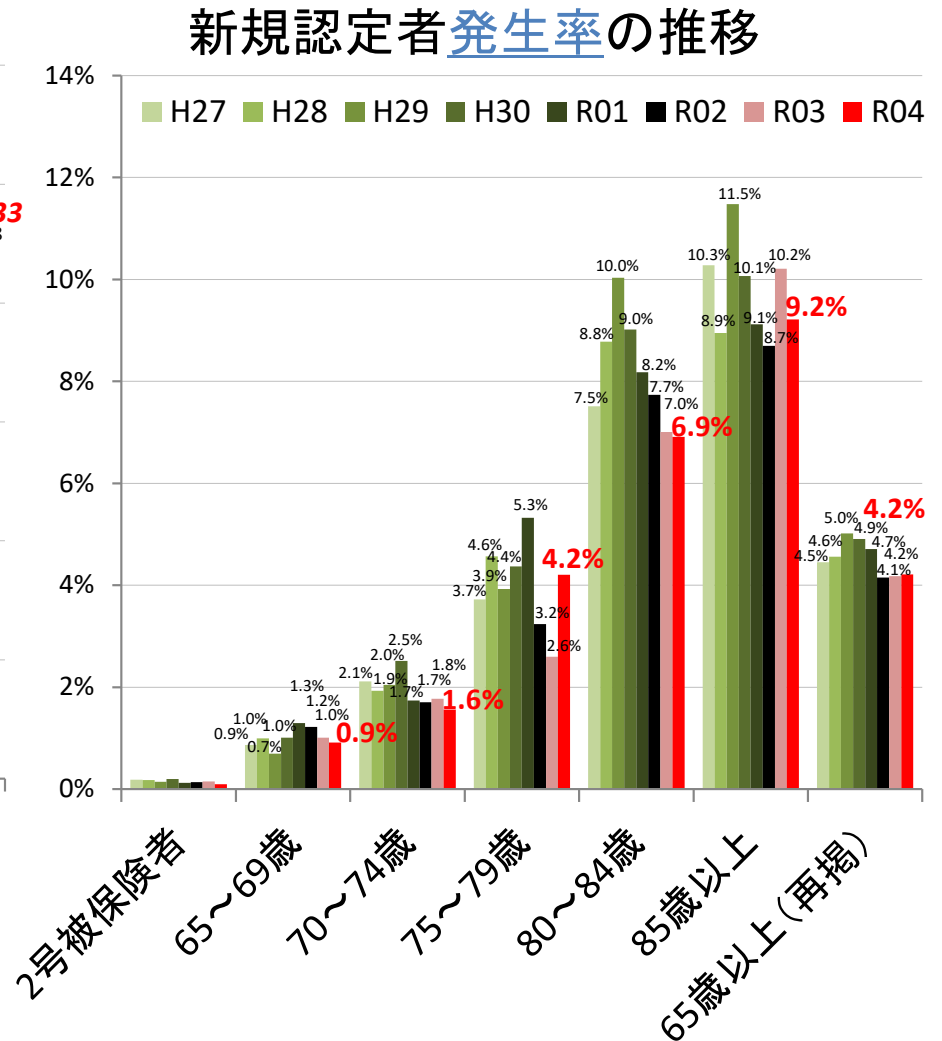
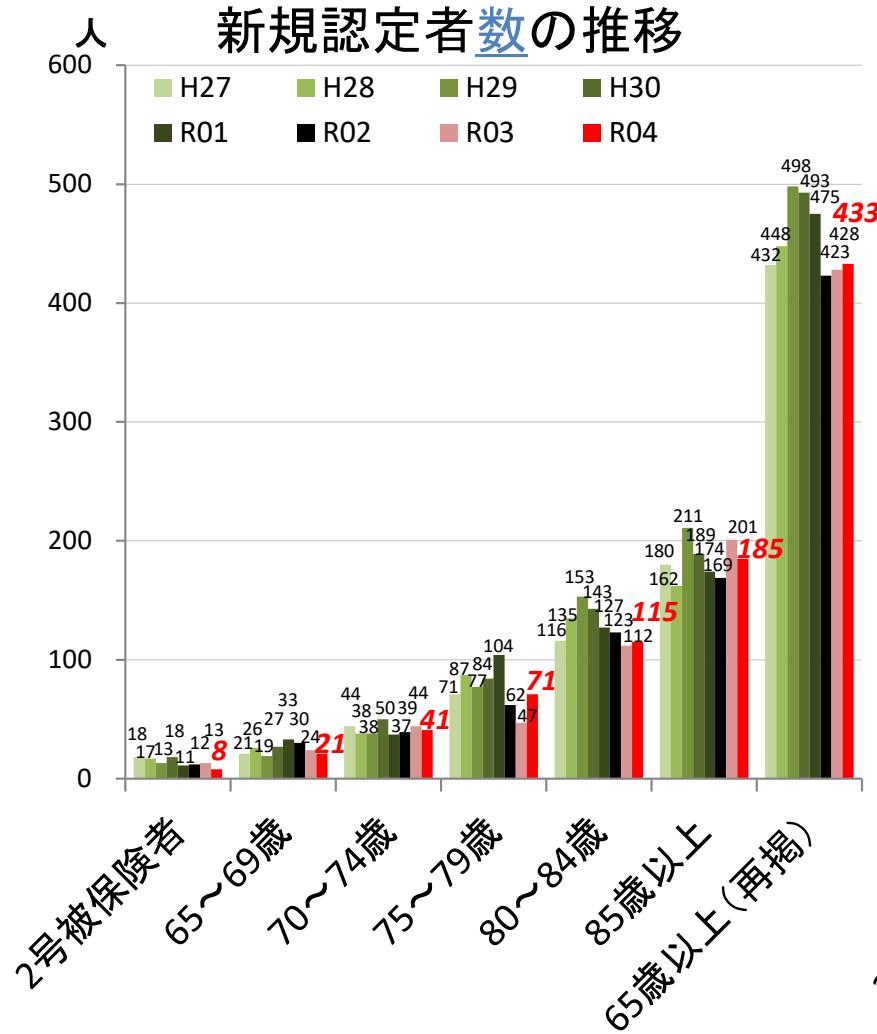
介護給付等分析報告書 概要版

分析年度（平成27～令和4年度）

株式会社 くまもと健康支援研究所

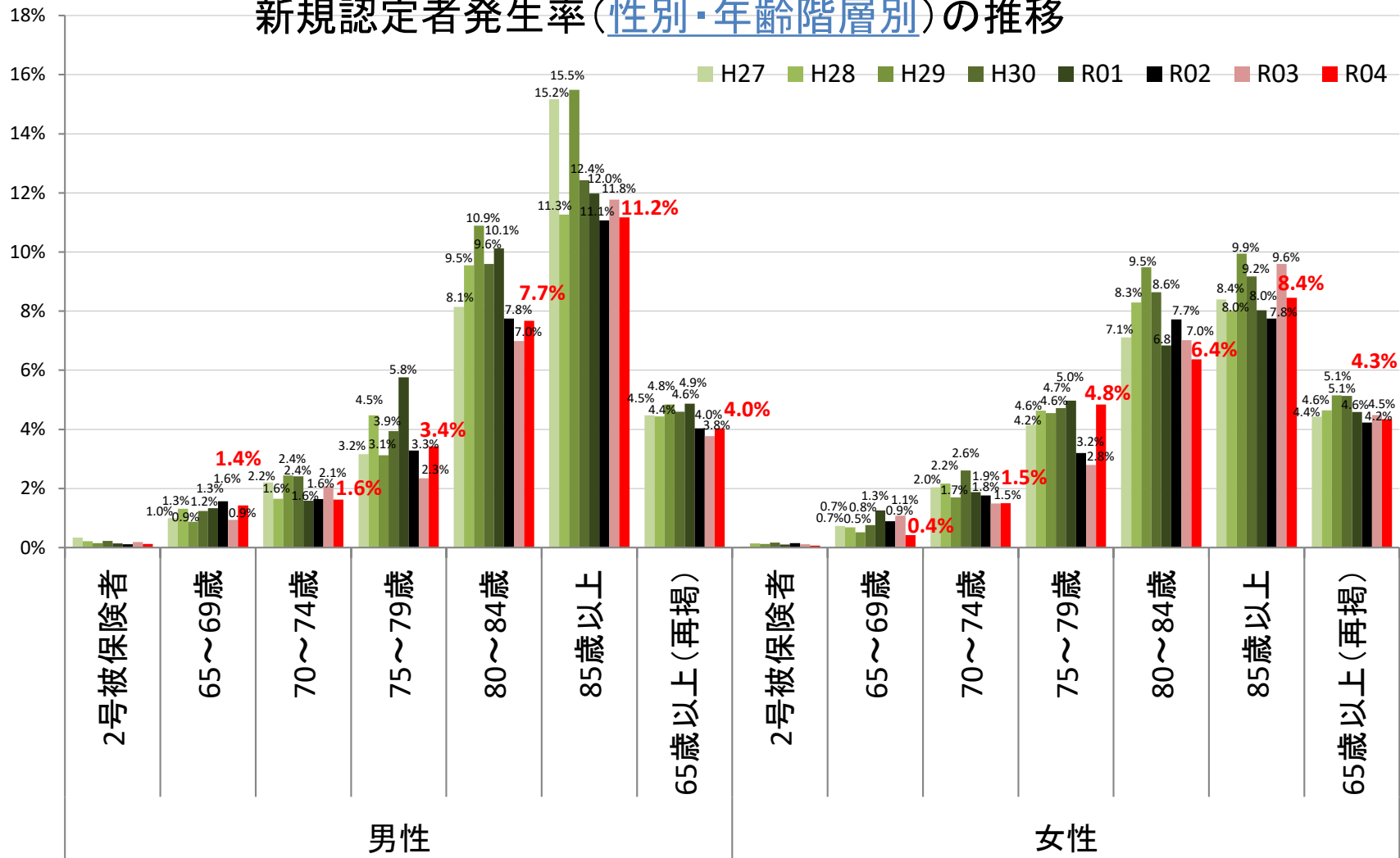
新規認定者発生者数・発生率の推移

- 令和4年度の新規認定者数は**433人**、新規認定率は**4.2%**であった。
- 年齢別にみると、**75歳を境に新規認定者の発生率の増加傾向が加速**する傾向があり、75歳時点でMCIやフレイルを早期発見し、要介護認定に至らないような早期介入が求められる。



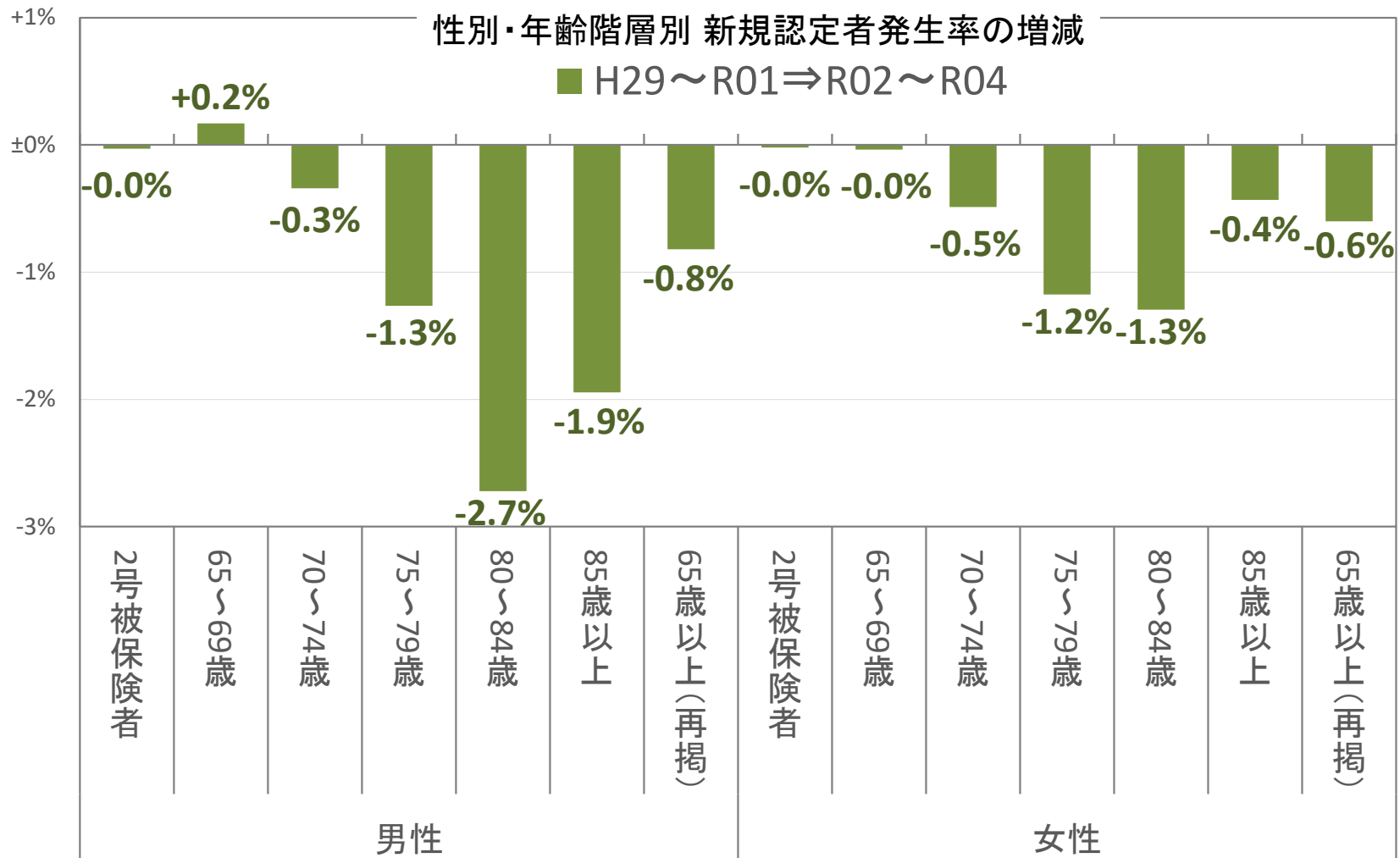
新規認定者 性別年齢階層別 発生率の推移

- 男女別にみても、**75歳を境に新規認定者の発生率の増加傾向が加速**する傾向がある。
- 男性は令和4年度、75～79歳、80～84歳の年齢階層において前年度より発生率の増加がみられた。
- 女性は令和4年度、75～79歳の年齢階層において前年度より大きく発生率の増加がみられた。

新規認定者発生率 (性別・年齢階層別) の推移

新規認定者 性別年齢階層別発生率の増減 (3ヶ年度単位推移)

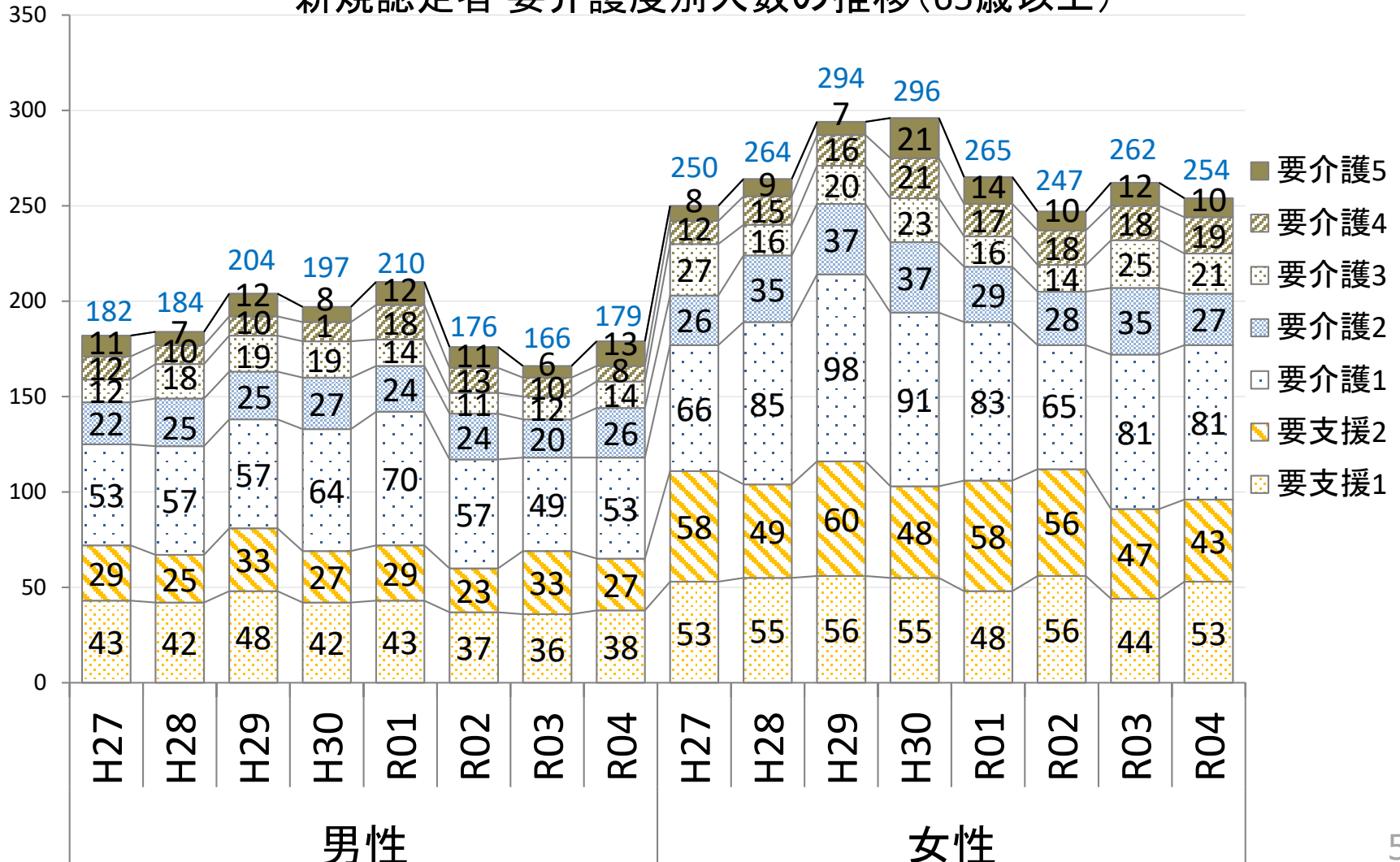
- 前ページのグラフをH29～R01年度とR02～R04年度の3ヶ年度単位にまとめた下記のグラフでは、短期的で突発的な変動に惑わされず、新規認定率の変化の方向性を把握することができる。
- 男女ともに70歳以上の年齢階層において減少傾向がみられ、特に男性の80～84歳の年齢階層において大きく減少がみられた。



新規認定者 要介護度別発生状況（65歳以上）

- 男女別に介護度別の新規認定者数をみると、**要支援1～要介護1の新規認定者数が大半**を占める。すなわち、要介護認定の大半が軽度の認定者であり、軽度認定の予防が重要な役割を持つことがわかる。
- 経年変化をみると、要介護1において、男性は令和2年度に減少して以降横ばいの傾向がみられる。女性は平成29年度以降減少傾向にあったが、令和3年度より増加に転じている。

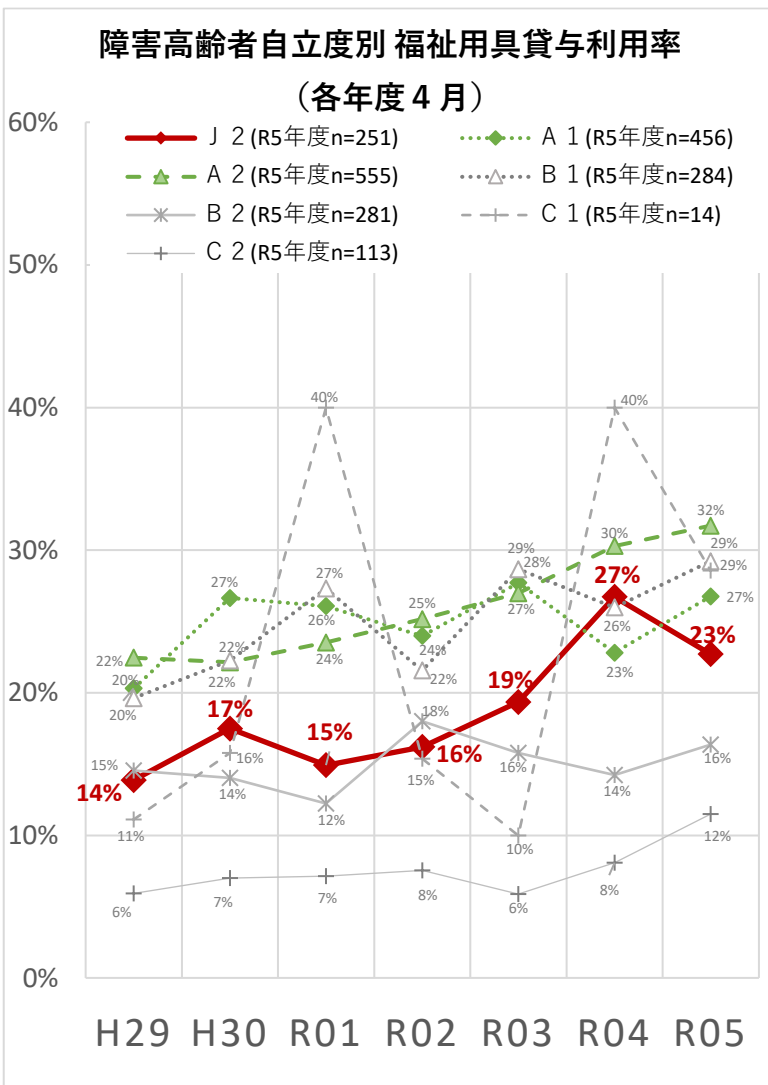
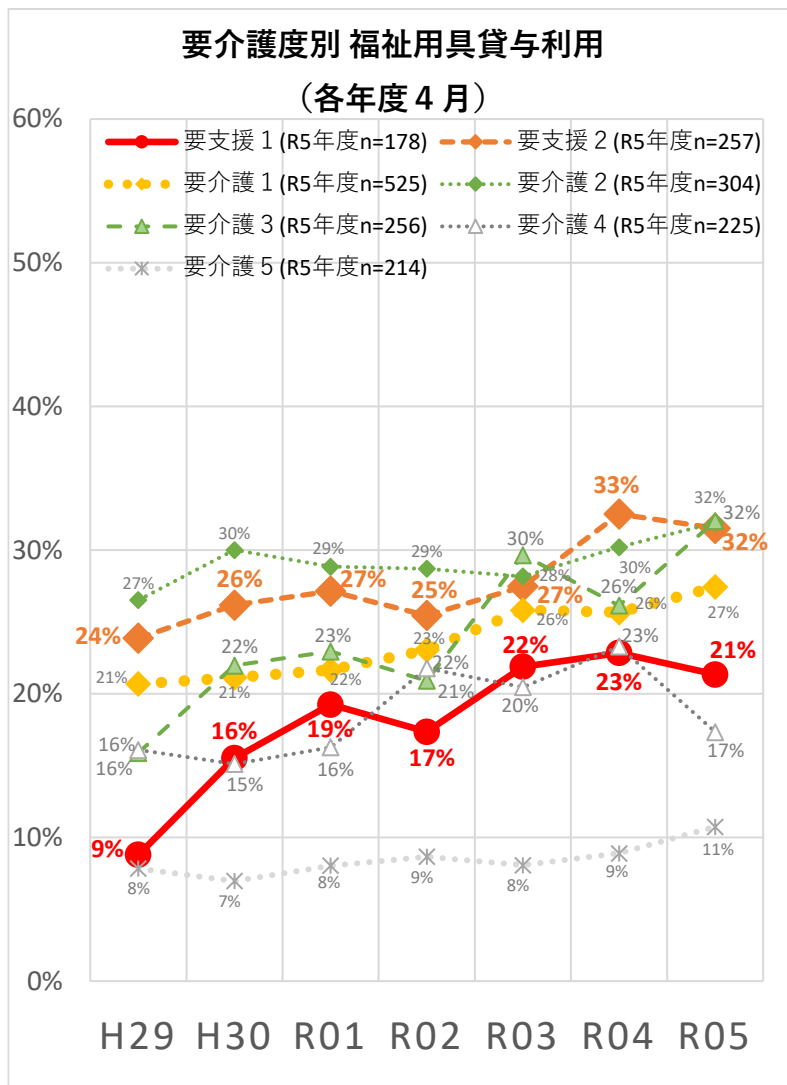
新規認定者 要介護度別人数の推移（65歳以上）



介護度別・障害高齢者自立度別福祉用具貸与利用

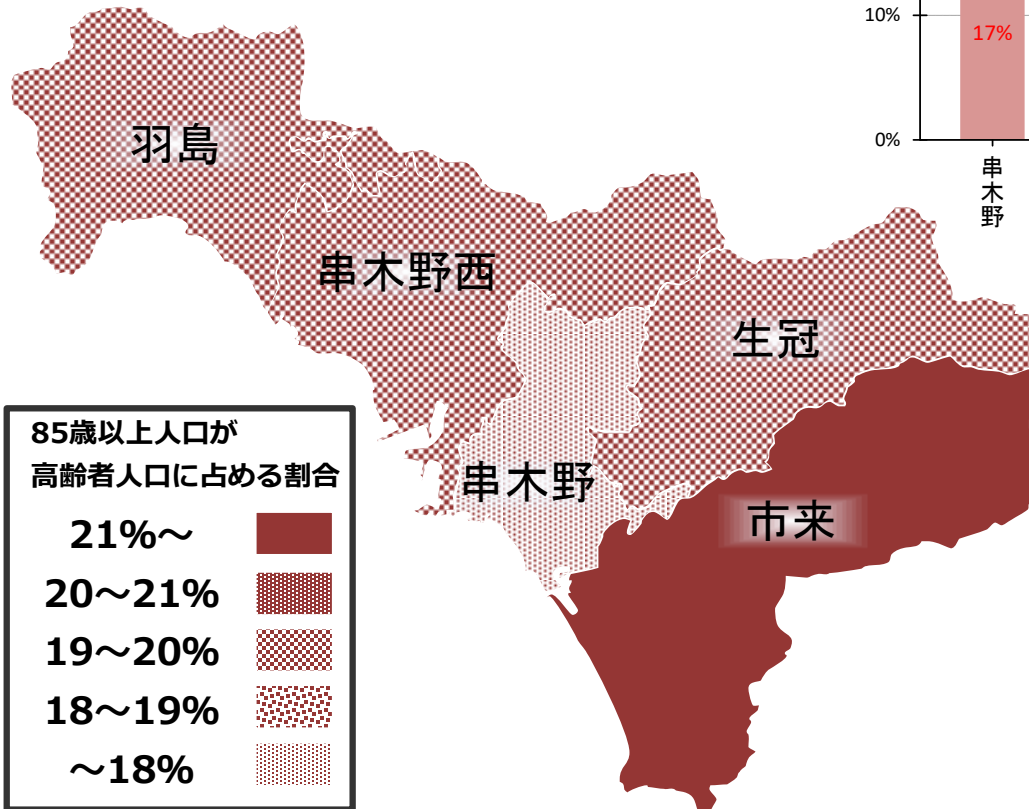
※このページのみ、分析対象は、新規認定者に限定されない各年度4月時点の認定者

- ・（新規認定者に限定されない）認定者の令和5年4月の福祉用具貸与利用率は、**要支援1では21%、要支援2は32%**であった。
- ・障害高齢者自立度J2の認定者では、令和5年4月は23%の利用率であった。
- ※下記グラフのC1については、対象者数が少ないため、評価、判断の材料とすることは難しい。

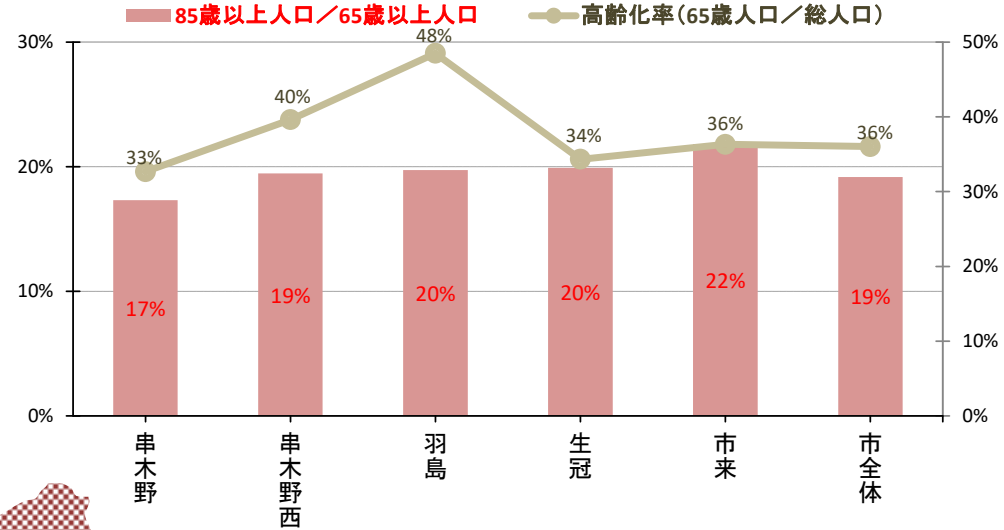


地区

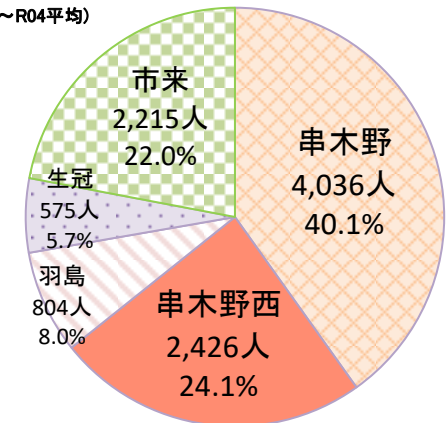
- 85歳以上人口が占める割合が他地域よりも高い地区は、認定率が高めに出る傾向がある。
- 市来は、この割合が特に高い。
- 各地域を、年齢構成の差を排除して比較するためには、「**年齢調整済認定率**」を用いる必要がある。次ページ以下では、主に年齢調整を行ったデータにて分析を行っている。



各地区の高齢化率と85歳人口の占める割合 (H27~R04平均)



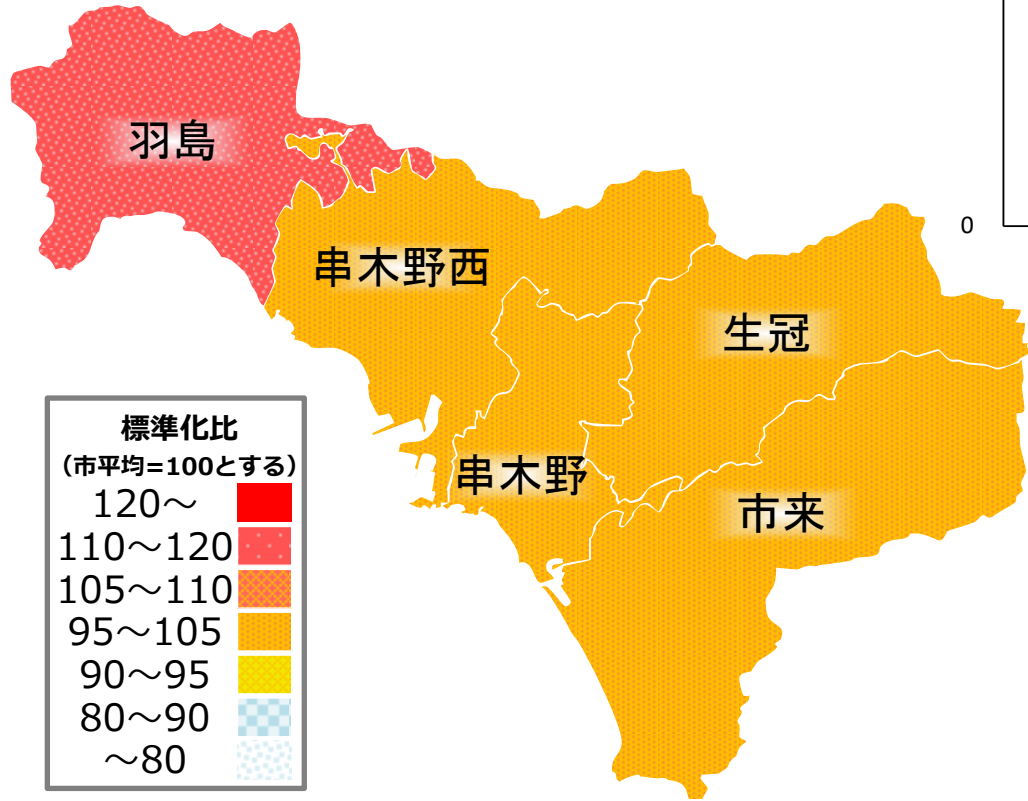
各地区の65歳人口 (H27~R04平均)



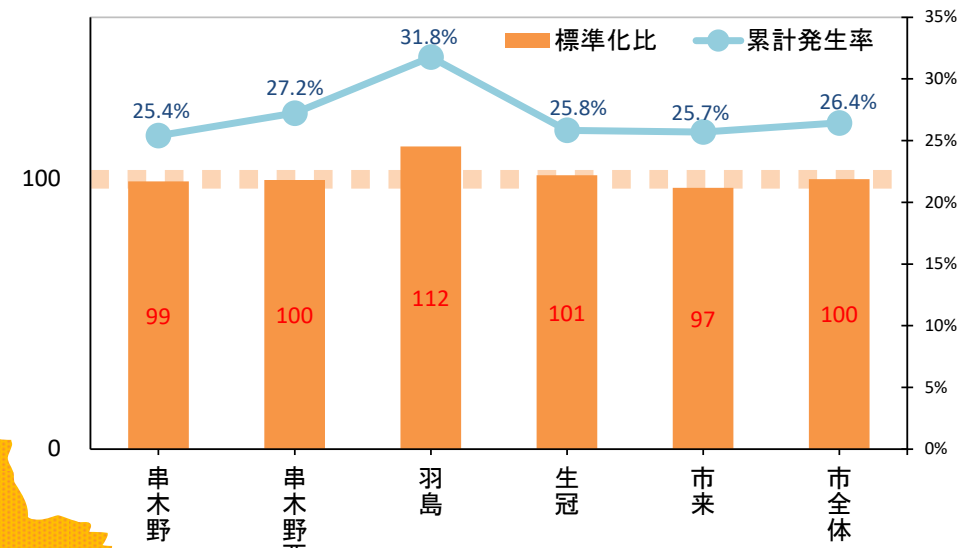
地域別 新規認定発生状況分析 (65~84歳)

地区

- 年齢調整済み新規認定率では、^{はしま}羽島が高く、他の地区間では大きな差はみられなかった。



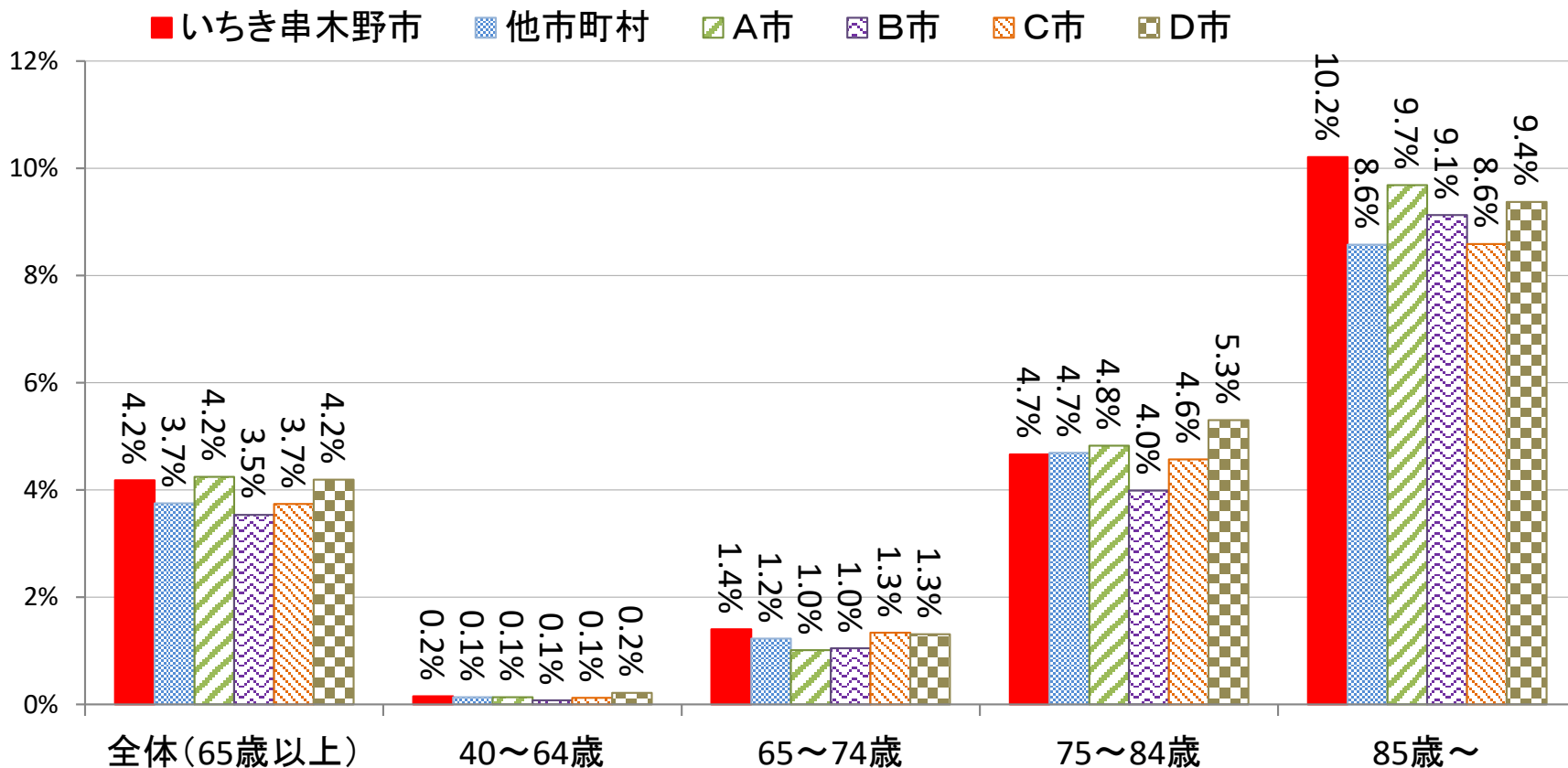
標準化新規認定者発生比 (65~84歳、H27~R04累計)



※標準化比：市全体を100とした場合の各地域の比率

- 弊社データベースで比較した年齢階層別新規認定率で見ると、いちき串木野市は85歳以上の年齢階層において他市町村平均より高い。

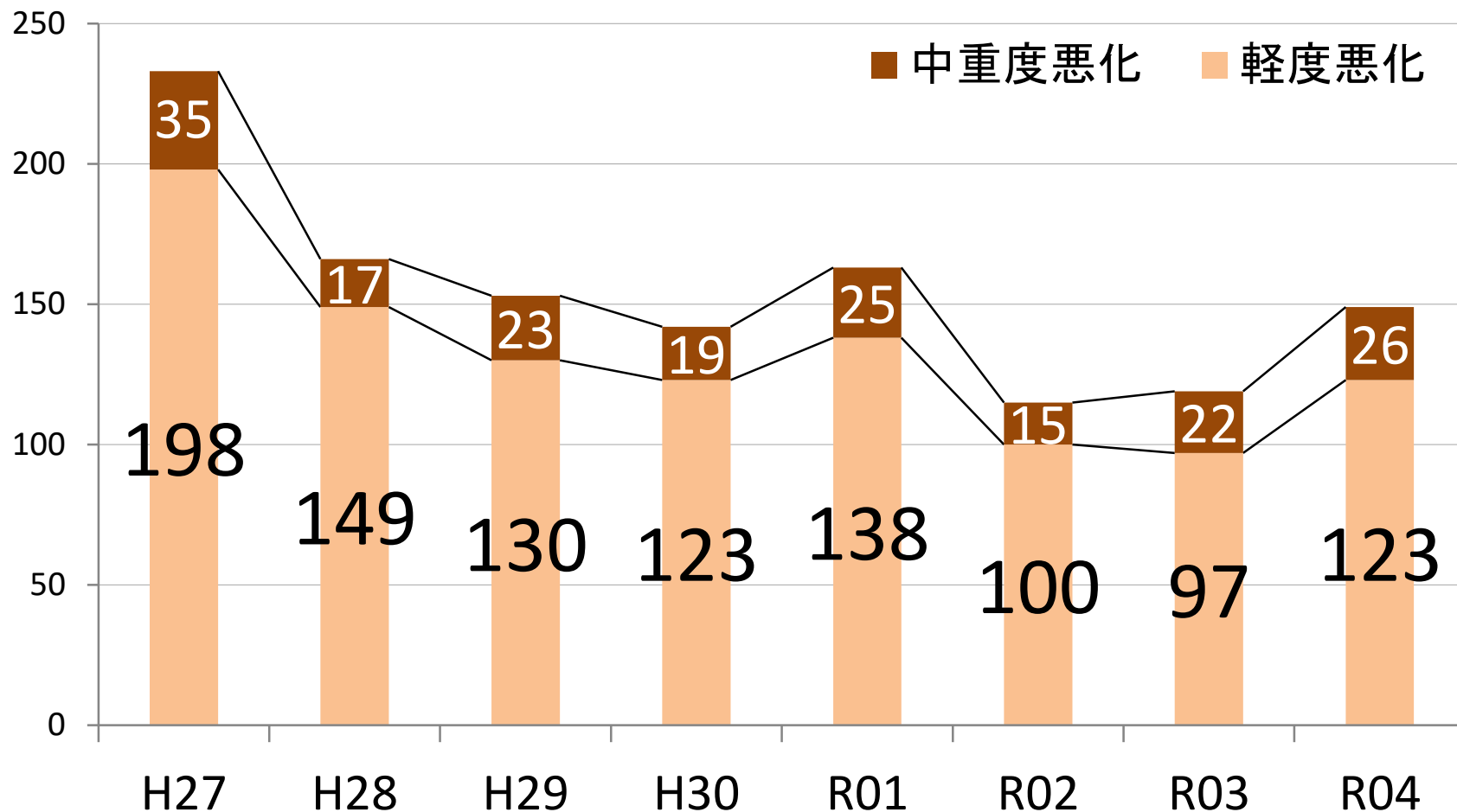
年齢階層別 新規認定者発生率保険者比較(令和3年度)



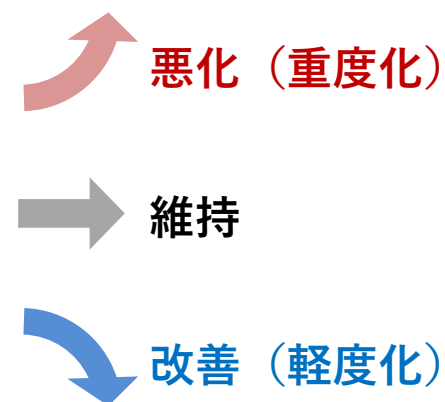
要支援からの介護度悪化件数の推移（65歳以上）

- 令和4年度の軽度悪化は123件、中重度悪化は26件であった。
- 軽度悪化について、経年的に減少傾向にあったが、令和4年度は増加に転じた。中重度悪化については、令和2年度以降増加傾向にある。

件 **重度別 要支援からの悪化件数の推移（65歳以上）**



	被保険者番号	〇〇年4月1日 介護度		翌年4月1日 介護度
Aさん	1000000001	要介護 2	⇒	要介護 3
Bさん	1000000003	要介護 2	⇒	要介護 2
Cさん	1000000007	要介護 2	⇒	要介護 1
...



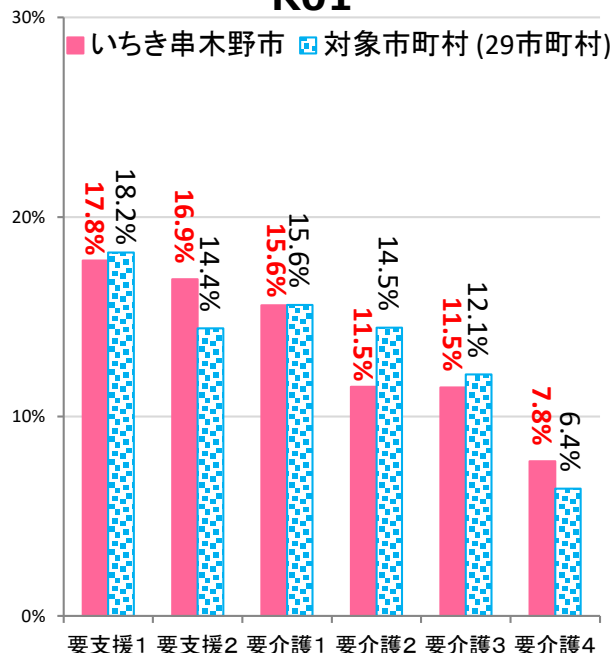
- ・被保険者ごとに、各年度の4月1日時点の介護度を比較
- ・介護度が上がっていたら「**悪化 (重度化)**」、下がっていたら「**改善 (軽度化)**」、変化がなければ「**維持**」

認定者の要介護度の変化（保険者比較・全年齢）

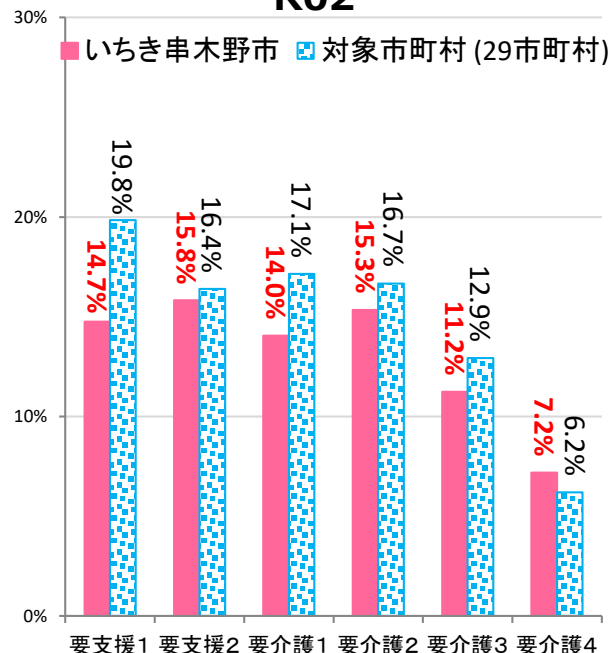
- いちき串木野市の介護度の悪化率を、弊社データベースによる他市町村平均の悪化率と比較したところ、令和2年度、3年度は要介護4以外の介護度において他市町村平均よりも低かった。

※各市町村で要介護認定における認定期間に大きな差があるため、認定期間の長短の影響を可能な限り小さくする補正を行って、比較している。

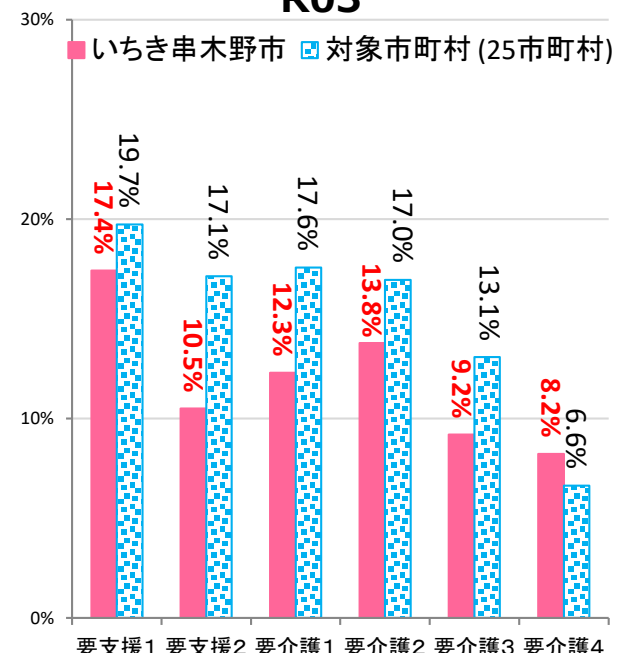
R01



R02



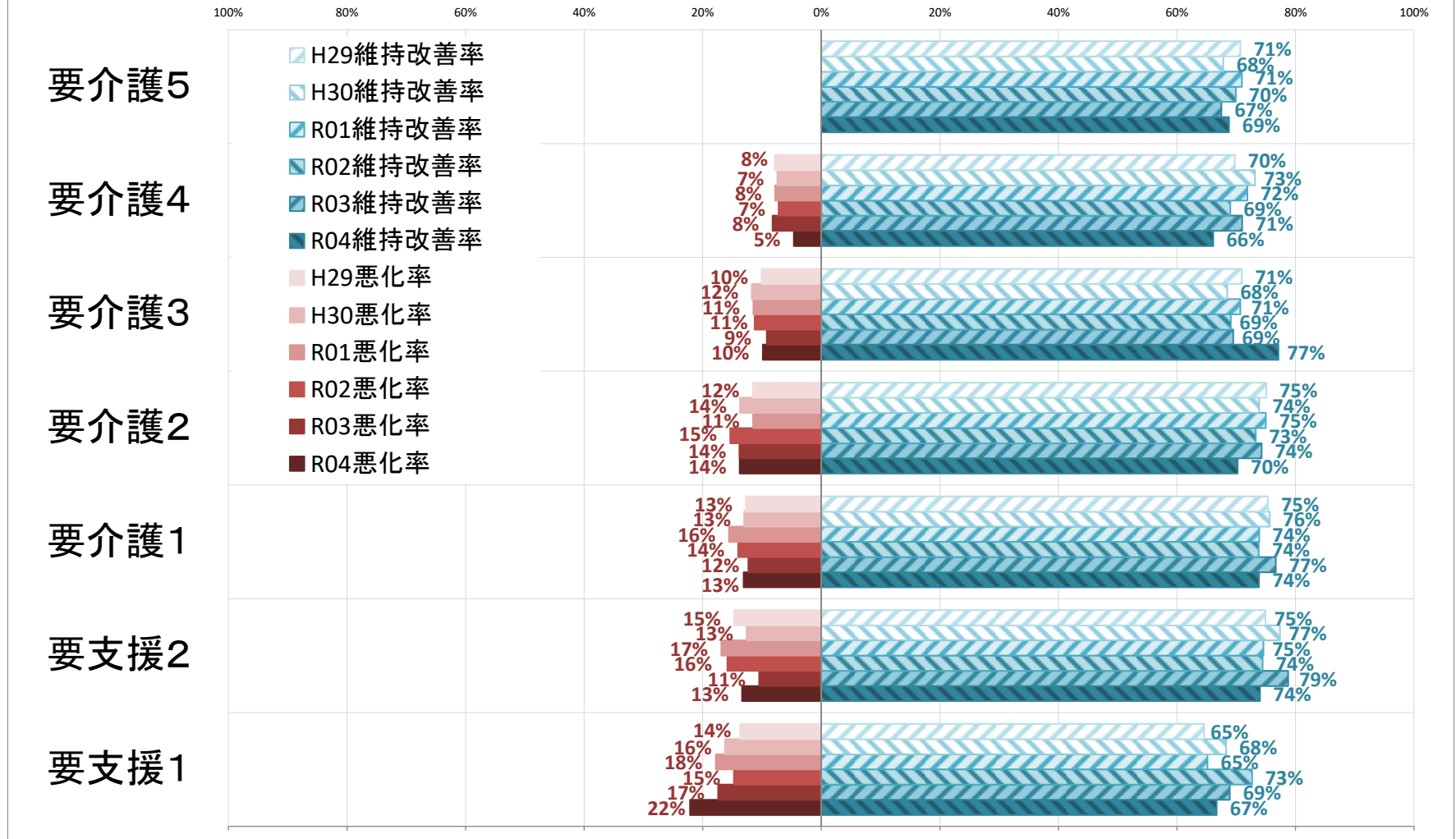
R03



認定者の要介護度の変化の推移（全年齢）

- 1年間の維持改善率と悪化率の経年推移をみると、要支援1において令和2年度以降悪化率の増加、維持改善率の減少傾向がみられる。また、令和4年度、要支援2～要介護1において前年度より悪化率の増加、維持改善率の減少がみられた。

認定者の維持改善率・悪化率の推移



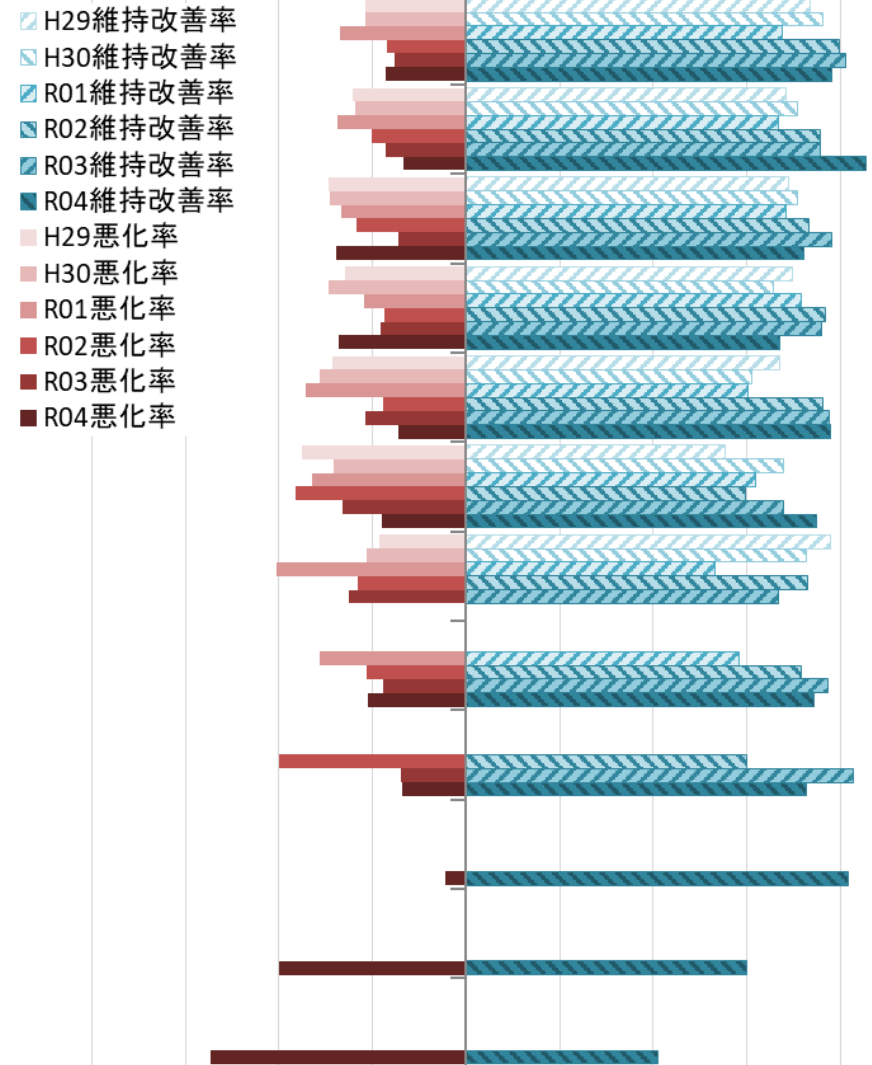
※経年比較のため、維持改善率および悪化率については、認定期間の長さを考慮した補正をしている。

居宅介護支援・介護予防支援 事業所別 介護度変化 (経年推移)

100% 80% 60% 40% 20% 0% 20% 40% 60% 80% 100%

◎6ヶ年度とも
平均を上回る事業所
↓
1ヶ所

▲6ヶ年度とも
平均を下回る事業所
↓
1ヶ所



◎ 分析対象期間全年度において平均を上回る事業所、▲ 分析対象期間全年度において平均を下回る事業所
 ※各事業所ごとに、年度内6ヶ月以上利用者について、維持改善率を集計。
 年度内に集計対象となる利用者数が**20人未満**となる場合は、グラフ上で表示していない。

通所介護 事業所別 介護度変化（経年推移）

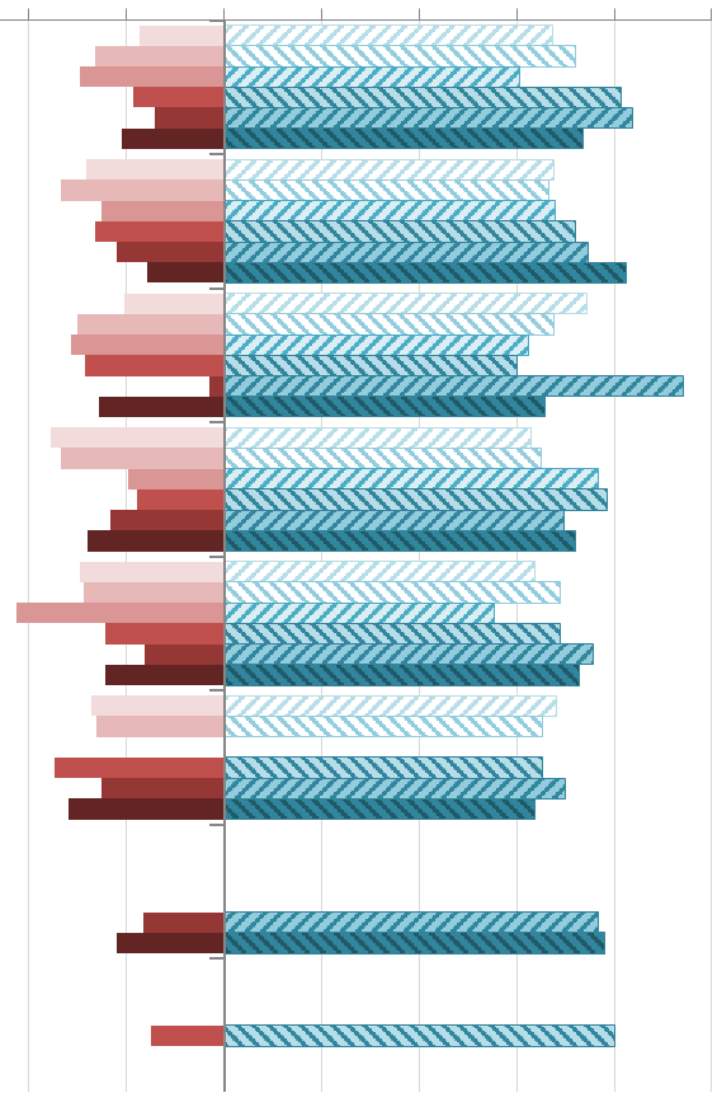
※「〇〇%」は事業所と同一建物の平均利用者率

100% 80% 60% 40% 20% 0% 20% 40% 60% 80% 100%

◎6ヶ年度とも
平均を上回る事業所
↓
0ヶ所

▲6ヶ年度とも
平均を下回る事業所
↓
0ヶ所

- H29維持改善率
- H30維持改善率
- R01維持改善率
- R02維持改善率
- R03維持改善率
- R04維持改善率
- H29悪化率
- H30悪化率
- R01悪化率
- R02悪化率
- R03悪化率
- R04悪化率



ない」と「同一建物」とは見なされない。

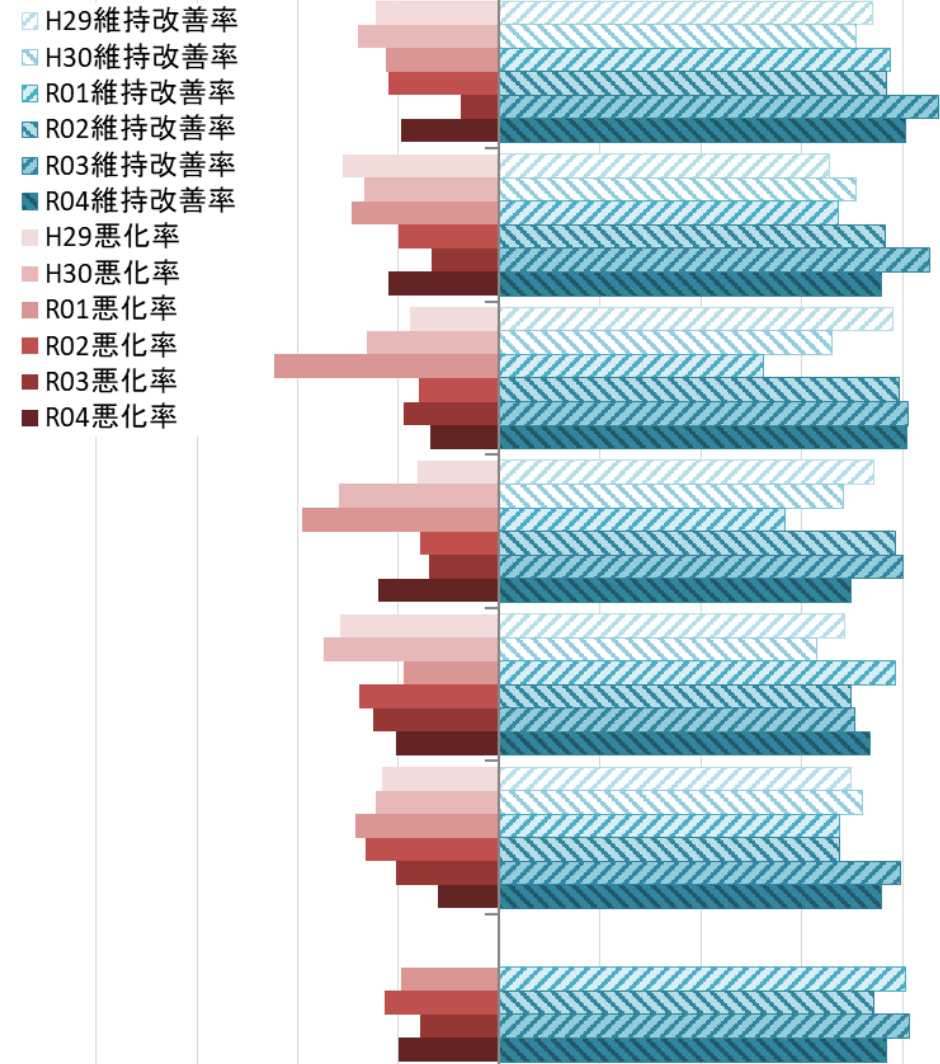
◎ 分析対象期間全年度において平均を上回る事業所、▲ 分析対象期間全年度において平均を下回る事業所
 ※各事業所ごとに、年度内6ヶ月以上利用者について、維持改善率を集計。
 年度内に集計対象となる利用者数が**20人未満**となる場合は、グラフ上で表示していない。

通所リハビリ 事業所別 介護度変化 (経年推移)

100% 80% 60% 40% 20% 0% 20% 40% 60% 80% 100%

◎6ヶ年度とも
平均を上回る事業所
↓
1ヶ所

▲6ヶ年度とも
平均を下回る事業所
↓
0ヶ所



◎ 分析対象期間全年度において平均を上回る事業所、▲ 分析対象期間全年度において平均を下回る事業所
 ※各事業所ごとに、年度内6ヶ月以上利用者について、維持改善率を集計。
 年度内に集計対象となる利用者数が**20人未満**となる場合は、グラフ上で表示していない。